

## 高松亨さんとの思い出

廣 田 義 人

高松亨さんと私は中岡哲郎先生に師事した同門である。私は工学部生産機械工学科を卒業して、1981年に大阪市立大学経済学部で学士入学し、中岡先生のゼミで2年間学んだ。私が卒業した後、しばらくして大阪大学で化学工学の博士課程を修了した高松さんが、中岡ゼミの院生となった。初対面の時は憶えていないが、私が勤めていた鉄工所に中岡ゼミのみんなが工場見学に来た中に高松さんがいたことは覚えている。

中岡先生がメキシコから帰られて、1985年に両大戦間期の機械工業研究会が始まった。それに高松さんも私も参加した。2カ月に1回くらいの頻度で、研究会のメンバーないしゲストが報告した。中岡先生が主宰され精力を注がれた共同研究だったので、高松さんも私も気合が入っていた。この共同研究の成果は1990年に『技術形成の国際比較』として出版された。高松さんは中岡先生の巻頭論文に続き、日本・韓国・台湾の機械貿易を比較した総論を担当し、私は各論の一章を担当した。

次にいっしょにした仕事は、中岡先生が監修者のひとりであった『大阪社会労働運動史』の執筆だった。高松さんは昭和30年代を扱った第4巻から、私は昭和40年代が対象の第5巻から担当し、2005年までを扱った第9巻まで、10年ごとの大阪の産業の動向を分担して執筆した。高松さんが化学工業、私が機械・金属工業という割り振りである。第9巻は高松さんが企画委員の一人だった。最近、第10巻の刊行に向けて、産業技術に関する章の節立てを検討し始めたが、高松さんに代わる化学工業の書き手が思い浮かばない。

かつて繊維産業で栄え、戦後衰退していく大阪、マンチェスター、フィラデルフィアを比較する国際的な研究会にも、私たちは参加させてもらった。造船業も三都市に共通に見られる産業なので、高松さんと私が組んで大阪に本社がある日立造船の事例を調べた。私には英米の研究者に向かって英語で発表する能力はなかったので、冷や汗ものの研究会だったが、高松さんに発表してもらい、英語の論文にしてもらった。

1995年に私は失職して、翌年、大阪経済大学大学院に入学し、再び、中岡先生のゼミ生となった。その年、高松さんが経大に採用され、中岡先生の下でいっしょに『戦後日本の技術形成』に実を結ぶ共同研究をすることになる。

齋藤栄司先生が主宰されていた経大中小研の金型研究会でも高松さんと一緒だった。高松さんも私も金型に関する予備知識はなかったが、齋藤先生の導きで、関西、東京の他、2度にわたりシンガポールまで、金型メーカー・ユーザーの調査に行った。シンガポールと一緒に、日系企業やローカル企業の大小さまざまな工場で聞き取り調査をし、夜はオープンテラスの海鮮料理店やホーカーズなどで飲み食いしたのは、愉快的思い出である。

高松さんとは日本産業技術史学会でも一緒だった。彼は学会で長らく理事として事務局を担当していて、それを引き継いだのが私だった。堀尾尚志会長の自宅に二人で伺い、学会誌の発送作業をし、その後、ごちそうになって帰ることもしばしばであった。

研究では柱になる独自テーマが定まらず、苦悩があったように思える。研究面で行き詰っていた時期だったので、学部長という要職を引き受けたと聞いた。しかしながら、高松さんの仕事はいずれも彼だからこそできた仕事だと思う。

研究会や学会の後はみなで飲んで帰るのが常だった。高松さんはなかなかの食通だったので注文はいつもお任せで、勘定書を見て一人いくらと計算するのも彼だった。チェーン店の居酒屋で飲むのは沽券にかかわるようだった。いつも口が重くて聞き役に回る私とはちがって、快活だった。けっこう鋭い切り口で率直な物言いをするのだけれど、人に不快感を与えるようなことをけって口にしなかった。しぐさや表情の作り方はやや大げさで、おおむねいつも楽しそうにしていた。酒は好きだったが、酒に飲まれた姿を見たことがない。みだしなみもセンスも彼の方が良かった。

経大の高松研究室に長らく学会関係の資料を保管してもらっていて、それを引き取りに行ったのが、2016年8月2日だった。久しぶりに高松先生が出てきているとの話が伝わると、若い男女の事務職員さんが手伝うことはないかとやってきて、楽しそうにおしゃべりしていた。ほんとうに誰からも好感をもたれる稀有な人柄だった。

告別式に参列した時、出棺の際に一人の若い女性が「高松先生、ありがとうございます」と大きな声で見送った。私もじんときてしまった。

さて、追悼論文として、特許・実用新案に目配りしたステープラの技術史について書かせてもらった。高松ゼミの卒業論文は物の歴史がテーマで、文献が少ないと特許も調べていると聞いていた。はたして、高松さんが読んで、おもしろがってくれるだろうか。もうちょっと長く、お付き合いしたかったのに。また、いつか、どこかで、お目にかかりたいものである。